

## PowerControls 3.0 の新機能

### コマンドラインの応用例

#### 【事例】

毎日 Exchange Server を含むサーバーのバックアップは TAPE にバックアップしているが、この Exchange Server の特定のメールボックスだけ蓄積バックアップを取りたい。

例えば、特定のプロジェクトメンバーのメールボックスについては、プロジェクトの終了後 1 カ年は稼働期間に取り交わした全てのメールを保管すると共に、何時でも特定の端末から必要なメッセージ等を検索できる様にしたい、VIP や情報漏洩リスクを伴う業務に従事するメンバーのメールボックスを何時でも参照可能な様にしたいなどが考えられます。

ある特定のメールボックスの内容を毎日バックアップをとりたい場合、次の 2 STEP でバックアップを行うことができます。

1. ExtractWizard を使用し、テープ等のバックアップから EDB ファイルを回収します。
2. コマンドラインを使用してコピーを行います。

※PowerControls を使用してコピーすることもできますが、新しく加わったコマンドライン機能を使用して一度.bat ファイルを作成しておく、作成後はその.bat ファイルを動かすだけでバックアップが可能です。EDB ファイルは毎回バックアップから ExtractWizard を使用して作成しなければなりませんが、従来必要だった PowerControls の起動、EDB ファイルと Exchange Server のメールボックスあるいは PST ファイルのオープン、手動でのコピーといった手間を省く事ができます。

### コマンドライン例

- ・ PST ファイルへのバックアップ

pcuser1 メールボックスとそのサブフォルダを c:\pcdata.edb から c:\target.pst にコピーし、c:\log.txt というレポートも作成します。

バッチファイル本体の内容は以下の様になります。

```
cd C:\Program Files\Ontrack\PowerControls
powercontrols -copy -r -o c:\log.txt c:\pcdata.edb pcuser1 c:\target.pst $ROOT
:
:           複数のメールボックスを一操作でコピーする場合
:           2行目を複製し、pcuser1 に当る部分をそれぞれの
:           メールボックス名に変更する。
:
```

この様に各アカウントに対応するメールボックスを PST 上のフォルダとして複製しておけば、一括して検索を掛けるなどといった応用も広がります。  
ここで失われる可能性があるものは、バックアップ 1 サイクルの間で送信/受信し、削除されたものだけであり、ほぼ完全なバックアップを持つことが可能です。